

【学力向上フロンティアスクール用中間報告様式】(中学校用)

都道府県名	兵庫県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	姫路市立朝日中学校					
学 年	1年	2年	3年	障害児学級	計	教員数
学級数	9	9	8	1	27	46
生徒数	344	341	313	7	1005	

研究の概要

1. 研究主題

一人ひとりの瞳輝く授業と確かな学力の向上をめざして

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

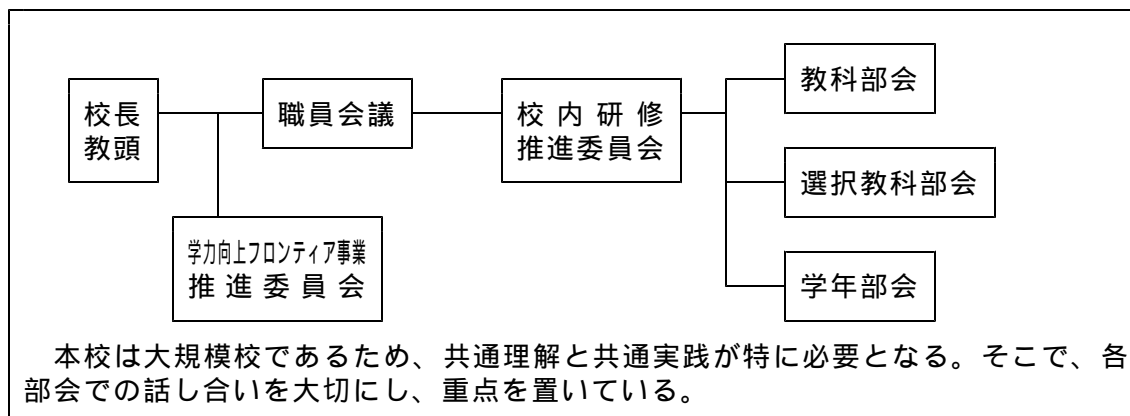
<p>* 1年生・英語 英語の学習入門期であり、基礎・基本の徹底に適した教科、学年であるため。</p> <p>* 3年生・選択(英語) 生徒の興味・関心、理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 生徒の情意的領域(関心・意欲・態度)を高める指導の研究 研究の見通し(仮説) 生徒が主体的に学ぼうとする意欲・態度を高めることが学力向上のための第一と考え、分かる授業の実現のために指導方法の工夫改善等を行うことで、生徒の学ぶ意欲や生きる力の向上につながる。</p> <p>研究の内容・方法 ・授業形態、指導方法や指導体制の工夫改善 ・学校、家庭、地域との連携と協力で学習指導を進める方策づくり</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 生徒の学力の評価を生かした指導の研究 研究の見通し(仮説) 生徒の自己評価や細かな評価活動を取り入れていくことで、分かる授業の実現のために指導方法や教材等の工夫改善を行い、さらに生徒の学ぶ意欲や生きる力の向上につながる。</p> <p>研究の内容・方法 ・評価基準の検討、改善 ・選択教科における発展的な学習の充実 ・授業形態、指導方法や指導体制の工夫改善 ・学校、家庭、地域との連携と協力で学習指導を進める方策づくり</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

[少人数授業について]

1年の全学級の英語週3時間全ての授業において1学級を2学習集団に分けて、少人数授業を実施。分割方法は、英語学習入門期のため機械的な2分割とした。1学期は、基本的な学習習慣の確立を第一の目標としたが、1集団が19人程度のため、授業中での個に応じた机間指導がスムーズに行うことができ、ノート点検もほぼ毎時間と、充実させることができた。つまずきの様子がよく分かり、評価規準Cの生徒に対してその都度アドバイスをすることが可能となった。

2学期は生徒同士のペア練習、会話練習などのコミュニケーション活動に重点を置いた。少人数のため、それぞれが助け合ったり質問し合うなどして、言語活動に充実感を持って参加することができた。

単語テストや単元毎のプリント、また発音練習や対話練習などの繰り返し指導や個別指導により、基礎・基本的な部分を徹底することができた。

生徒と教師また生徒同士の人間関係の構築がスムーズにでき、心の距離が近くなることで、実践的なコミュニケーション能力の育成には不可欠な要素である積極的な態度を高めることができた。

現段階では、学力の向上を数値的な部分で捉えることは難しいが、生徒や保護者へのアンケートを見ると「積極的に質問ができる、発言しやすい」「少人数の方が集中しやすい、先生の目が行き届いて良い」という感想が多く、教師サイドから見ても、基礎・基本的な部分の定着の割合は例年に比べても高いと感じる。また、わかる楽しさや喜び、充実感や成就感が学習意欲の向上につながっていると考えられる。

[選択教科について]

生徒の個性の伸長を図ると同時に基礎・基本の定着を図ることを考慮に入れ、各学年とも学級を解体し、各学年の発達段階に応じて多様な分割を実施。1年では2クラスを2展開（音楽・美術）、2年では2クラス3展開（音楽・美術・技術家庭）、3年では2クラス3展開（社会・理科・技術、音楽・美術・家庭）及び1クラス3展開（英語・数学2コース）とした。

多様な教科やコースの開設により、生徒の主体的な選択を支援することができた。また、少人数指導による、生徒の能力・適性、興味・関心に応じた、多様な学習活動を展開することができた。

3学年の選択教科の1つである英語・数学2コースに関して、教科選択と教科内選択を同時に実施。英語は補充的な学習を中心とした1コース、数学では基本と発展的な学習からなる2コースで実施した。生徒自らの主体的な選択としたが、進路を見据えた選択もあり、授業への取り組みにも自然と集中力が高まっている。

2. 今後の課題

[少人数授業について]

学習集団の編成は、生徒の学習意欲や学習の深化に大きな影響を与える。学年、単元、指導内容により、どのような学習集団を編成することがより効果的か、実践研究を行う必要がある。さらに、可能な限り継続した取り組みを実践していくことで成果がより高まると考えられる。

単に学習集団が小さくなるだけでは、教育効果は一時的で小さい。少人数に必要な指導方法や、少人数授業だからこそできる指導方法、教材など工夫する必要がある。

学習集団によって教師が異なり、評価基準が違うなどの問題が生じることがある。大規模校ならではの問題でもあるが、教師集団も個性を生かしつつ、共通実践を図り、指導体制の確立等について工夫・改善することが必要である。

[選択教科について]

必修教科と選択教科のねらいを一層明確化し、必修教科との関連性についても研究を深め、3年間を見通した学校全体としての計画的、系統的な選択教科の適切な実施を検討する必要がある。

生徒自らの主体的な選択を可能とするような多様な教科やコースの開設や、学習内容の工夫を、可能な限り進める必要がある。

生徒が選択履修の意義やそれぞれの選択教科のねらいや内容について、十分理解し、適切な選択ができるよう、ガイダンス機能の充実を図る工夫が必要である。また、年度途中のコース変更やクラス変更に対応していく等、指導体制の確立に向け工夫・改善が必要である。

[家庭や地域との協働体制の工夫、学校支援ボランティア等の導入]

学ぶ意欲や学習習慣の確立には、基本的な生活習慣や豊かな社会性が必要であり、そのための家庭や地域社会への協力要請を行う。アンケートの実施や結果の公開、授業の保護者参観の呼びかけを地域に広げる等、理解と協力を得るための方策をさらに検討したい。

選択教科の中でより専門性が必要と思われる分野等において、地域の人材の活用を図る必要がある。本年度、外国からの留学生を講師とした「国際理解講座」を実施したが、「参画と協働」の理念に基づいた導入を念頭に支援ボランティアの導入を図りたい。

学力把握のための学校としての取組

学力診断テストを3月に実施し、学年が進むにつれてどう変化していくか、どう学力がついたか診断する。

アンケートを生徒と保護者を対象に実施し、関心・意欲の状況や学習意欲の変化を調べる。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究会 日時：平成16年10月上旬予定

場所：本校

対象：授業公開については、広く地域の方々にも呼びかける予定。

今後、成果と課題をHPによって公開

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|--------------|--------------|--------------------------|-------|
| 【新規校・継続校】 | 1 5 年度からの新規校 | 1 4 年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 3 学級以下 | 4 ~ 6 学級 | | |
| | 7 ~ 9 学級 | 1 0 ~ 1 2 学級 | | |
| | 1 3 ~ 1 5 学級 | 1 6 学級以上 | | |
| 【指導体制】 | 少人数指導
その他 | T . T による指導 | | |
| 【研究教科】 | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 |
| | 外国語 | 音楽 | 美術 | 技術・家庭 |
| | 保健体育 | その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | 有 | <input type="checkbox"/> | 無 |